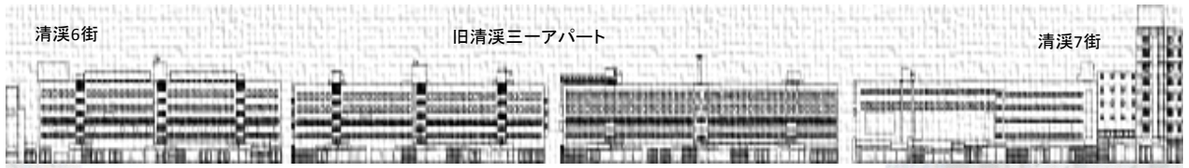
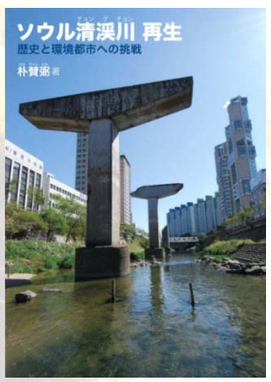


歴史と環境都市への挑戦
「ソウル清渓川写真・図面展覧会」

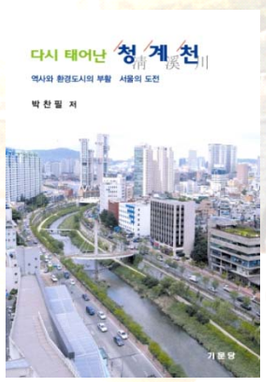
ソウルでは、旧市街の中心部を貫く高速道路を撤去して川を復元する壮大なプロジェクトが今世紀はじめに提案され、世論の後押しを受けてあっという間に実現した。ソウル市民は便利さを捨てて環境の回復を選択したわけである。
高速道路の建設が20世紀を象徴する事業だったとするなら、川の復元は21世紀を象徴する事業である。それは、理屈としては理解できても、実際に行うことは至難の業である。清渓川再生は、単なる川の再生事業ではなく、ソウル旧市街地の都市再生プロジェクトでもあった。ソウルにとって、見事に甦った清渓川にはいつも市民のにぎやかな声が響く憩いの空間になっており、市民たちの姿が絶えることがない。これほど成功をおさめた都市再開発事業はめずらしい。

出展概要

- パネル写真約160枚展示（キャプション入り）
- 清渓川の歴史、復元前と復元後の過程の流れを順序に展示
- 清渓川周辺の景観
- 清渓川周辺の北側約6km、南側6km、全長12kmのオリジナル立面図



日本版



韓国版

「ソウル清渓川再生」朴賛弼著　日韓同時出版記念
ソウル清渓川写真・図面展覧会実行委員会

歴史と環境都市への挑戦

「清渓川（チョンゲチョン）写真・図面展覧会」

日時：2013年2月26日（火）～3月13日（水）
オープニング：2月26日（火）16時
10時～18時30分（3月1,3,10日休館）・観覧無料
場所：大阪韓国文化院ミリネギャラリー

同時開催：「ソウル清渓川再生」講演会
2013年3月13日（水）18時～19時30分
講師：朴賛弼 工学博士（法政大学）

・主催
駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院
・協賛
清渓川写真・図面展覧会実行委員会
法政大学エコ地域デザイン研究所

・後援
韓国観光公社大阪支社
日本民俗建築学会
法政大学デザイン工学部建築学科
法政大学建築学科同窓会
関西ソウル親善協会

お問い合わせ
〒530-0016 大阪市北区中崎2-4-2
大阪韓国文化院 **Tel**. 06-6292-8760

清渓川写真・図面展覧会

歴史と環境都市への挑戦

会期：2012 月 7 日 24 日～8 月 3 日
会場：駐日韓国大使館文化院１Ｆ
ギャラリーＭＩ（四谷４丁目）

よみがえる清渓川
2005 年 11 月画

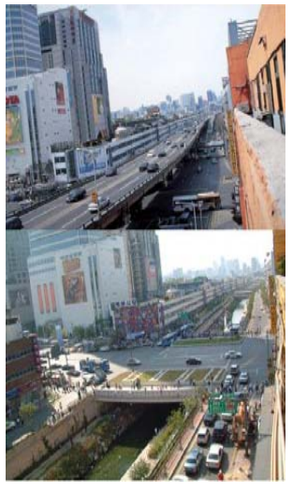
大韓民国は７０ 年代の「漢江の奇跡」といわれた高度成長を経て今日まで大きく現代化が進んだ。私は日本に来て長い歳月が流れたが、毎年帰国するたびにソウルの大きな変化に驚かされてきた。さらにこの１０ 年の進歩は目を見張るものがある。その変化を象徴するのがここに紹介した「清渓川の再生」である。行き過ぎた都市化の反省から、都市に自然を回復することは今や世界の課題だが、そのもっとも先進的な事例がここで始まったのだ。最初に高架道路が撤去された時の驚きは忘れることができない。

青々としたソウルの空が視界いっぱいに拡がって見えた。時代の変化をはっきりと感じたのはこの時かもしれない。そして、あとは年々目を見張るようなスピードで完成に向かっていった。この頃からソウルは激変していったような気がする。この事例をぜひ皆さんにお知らせしたい。

朴賛弼（法政大学工学博士）

高速道路と覆蓋道路が撤去され、青空があらわれた。

清渓９街から都心を眺める、力強い自然の回復力とダイナミックな開発。



復元前と復元後。川は覆われ、その上を高架道路が走っていた。(2001 年 3 月)

復元された広通橋から眺める。

歴史的遺産の橋が復元された。

高架道路が撤去され青空が現われた。

両岸をつなぐ橋が車道、歩道あわせて 22 本かけわたされ、単調な川に変化を与えた。

清渓川再生は川の再生だけではなく空の再生でもあった。

トンネル噴水、存置橋脚、庇雨堂橋が重なって見える。

1. 歴史と文化

ソウルは約 620 年も前に造られた都市である。韓半島の中心に位置し、舟運など交通の便によく、風水思想から見ても、もっとも首都にふさわしい都市とされた。

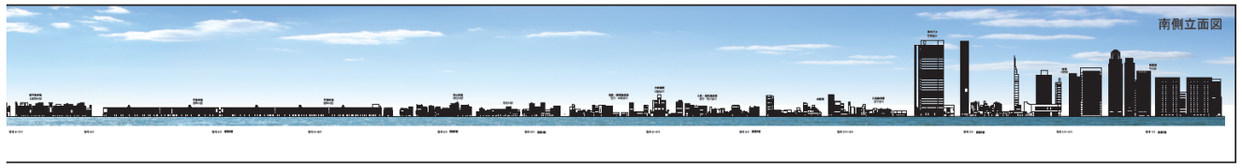
南に漢江が流れ、その支流として清渓川が漢江とは逆方向に流れている。この清渓川を中心として、ソウルの都市は発展していった。しかし、人口の増加とともに清渓川の汚染と氾濫に悩まされ、浚渫をくりかえした。近代になって、ついに清渓川に蓋をかぶせ、さらにその上に高架道路を作ってしまった。

ソウルの古地図、風水思想からみて見事な空間構成になっている。

漢陽都城図、19 世紀初期、袋小路が多い道は清渓川の水路をなぞるように巡っている。

1900 年ごろの清渓川、見える橋は水標橋で、今の清渓 2 街あたり。婦人らが洗濯をしたり、子どもたちが水遊びをしている。

景福宮光化門前の長生殿橋。清渓川の支流（清渓川文化館提供）



競馬場から自然公園へ、「ソウルの森公園」は市民の憩いの場。

「ソウルの森公園」は鹿が多い、鹿公園とも言う。

清渓川に先立って済州島の「山地川」の復元が行われた。

建物が撤去され「山地川」にはきれいな川が流れる。

添付展示資料
朴賛弼著
清渓川に関わる
雑誌、報告書、本

「ＦＲＯＮＴ」水の雑誌
2006 年 10 月

研究成果報告書、法政大学エコ研 2007 年 7 月

「HITACHI」
日立製作 2008 年春

「ソウル清渓川再生」
鹿島出版会 2011 年 12 月

「甦る清渓川」韓国版
技文堂 2012 年 3 月

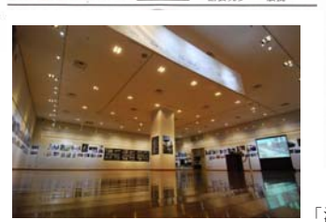
展覧会会場駐日韓国大使館文化院１ＦギャラリーＭＩ（東京四谷４丁目）

展覧会オープニングテープカット

展覧会会場には大勢の観覧者

同時開催「清渓川再生」セミナー

本展覧会にご協力した方々



謝辞
本展覧会にご協力した方々に大変お世話になりました。ここに記し、厚くお礼申し上げます。

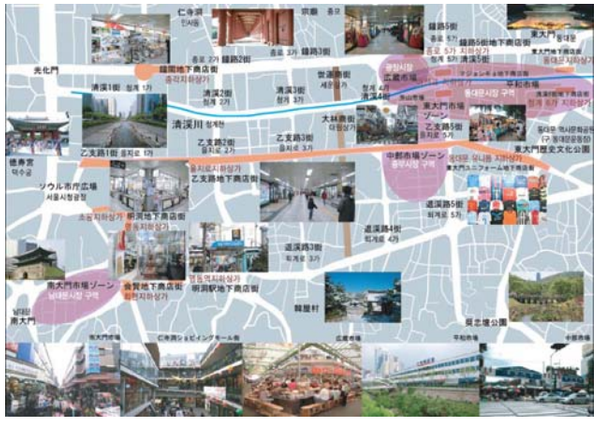
「清渓川写真・図面展覧会」
編集・制作：朴賛弼
park@hosei.ac.jp
http://www.k.hosei.ac.jp/park/
2013 年 1 月 29 日

南側立面図０.９m ×１４m

4. 市場・漢江

自然の回復事業は、清渓川だけではない。韓国では、多くの事業が推進されているが、なかでも漢江の周辺の自然回復事業は顕著な実績を見せている。

ソウルのゴミ捨て場と化した漢江の中の蘭芝島は、ゴミの山として悪臭を放っていたが、いまや、巨大な緑の公園として再生し、市民に親しまれている。漢江の上流も清流と化し、緑あふれる自然を回復している。また、埋めた川を復元する事業も、清渓川だけではない。済州島の山地川は清渓川より前に、川の上に建てられたビルを撤去して、川を復元している。



清渓川周辺の市場と地下商店街、清渓川をとりまく巨大な商業空間

空からみた漢江。

「漢江の奇跡」と呼ばれた韓国の経済発展は漢江の再生から始まった。

漢江を中心として北側が旧都市である江北（カンブク）、南側は新都市江南（カンナム）。

浄水場から自然公園へ、浄水場の設備を活かした水生植物園。

広蔵市場の夜は活気がある。

マジョンギョ地下商店街、メドプ（結び）の店。

ごみの山から自然の山へ再生された蘭芝島、ハヌル（空）公園へ登る階段。

浄水場から自然公園へ仙遊島橋、韓国とフランスの修好条約100周年記念としてフランスで設計し、ソウル市が施工したもの。

都会の中に山奥を思わせるような自然を回復した良才川。

仙遊島公園（ソンユド）」は古い浄水場の構造物を保存し、活用したリサイクル空間である。

中浪川の岸辺にはサイクリングロードなどが整備されている。

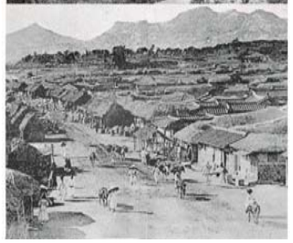
中浪川（チュンリャンチョン）の風景、清渓川をはじめとする漢江周辺の再生事業はソウルの自然回復にとって大切なものである。

上の水が清めば韓国では「上の水が清めば下の水も清む」ということわざがある。

昌徳宮の庭園、秘苑の宙合楼と池。宮殿は水と深い関わりをもっていた。

豊かな水に囲まれた景福宮の慶会楼。

五間水橋の上で清渓川の浚渫を視察する国王。



↑漢城（ソウル）を取り囲む城壁。
↓1900年ごろのソウル鐘路の風景、まだ伝統的な家屋で埋め尽くされている。

清渓川の浚渫工事の様子。水標橋の周辺（現在清渓３街）。

水標橋、現在は奨忠壇公園に保存されている。

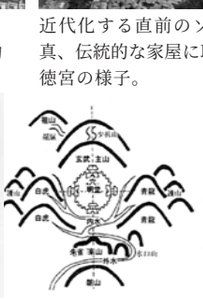
広通橋での両班踏橋。橋踏み（タリバルキ）ともいわれる踏橋は、老若男女、身分にかかわらずすべての人が一緒に楽しむ季節の風習。

清渓川周辺では凧揚げの民俗遊びがあった。凧を揚げるのは、遊びというだけではなく、厄を払う呪術的な目的もあった。

清渓川北側には伝統的家屋「韓屋（ハノク）」が沢山残っている。

清渓川の支流、主婦は洗濯に子どもは遊びに、川は生活と密接な関係をもっていた。

1930　年頃の北村、清渓川北側の伝統的住居群。



風水の原形図

山局図の風水の概念図

ソウルの風水地形図

ソウルの清渓川案内図

2. 復元前

清渓川の周辺は、市場、露天商などで賑わっていたが、道路の下の清渓川は腐敗し、悪臭を放っていた。さらに高架道路は老朽化のため、危険な状態となっていた。このまま修復を繰り返して使いつづけるべきか、あるいは高架道路を撤去すべきか、激しい論争となった。暗渠の中から歴史遺産の橋が発掘され、復元された。再生した清渓川は、ソウルの旧市街の中心に水と緑をもたらしたのみならず、都市再生の引き金になった。

開発の前の清渓川の周辺、清渓５街・鐘路５街から１街の方向を望む。

清渓川周辺のバラック。（清渓川文化館提供）

↑右上に高く見えるのが東大門、城外の清渓川周辺は無許可のバラックの集落が発生している。
↓清渓川の川岸に出来た高床式のバラック群。

水量が少ない冬季の清渓川、子どもの遊び場にもなる。

バラック街の風景。（清渓川文化館提供）

↑覆蓋工事が進み、川はコンクリートで覆われ暗渠となった。
↓清渓川の覆蓋工事と同時にバラックの撤去も進む。

↑覆蓋工事が完了し、広大な道路が出現した。6 街から 5 街を望む。
↓覆蓋道路の上にさらに高架の高速道路の建設がはじまった。高架道路の橋脚が林立する。

↑歩道には露天商が並んでいる。(2001 年 3 月)
↓陸橋の上でも露店が並んでいる。その上には清渓高架道路が走っている。(2001 年 3 月)

↑老朽化した橋脚。
↓高架道路の補修老朽化した橋脚。

清渓川の復元工事進行過程。

覆蓋道路の撤去工事は急ピッチで進められた。

高架道路と覆蓋道路が撤去されて、川の様子が次第に見えてきた。

1970 年初期の清渓高架道路。左に見えるのが東大門。右側が当時高速バスターミナル。今は東大門総合市場になっている。(清渓川文化館提供)

清渓 8 街から都心の方向を眺める。清渓高架道路の左右は三一アパートが並んでいる。現在はすでになくなっている。

清渓 2 街にあった高架道路の入口。

清渓川の暗渠を視察する李明博市長（現大統領）。

復元工事で発掘された橋の遺跡。

清渓川復元起工式。

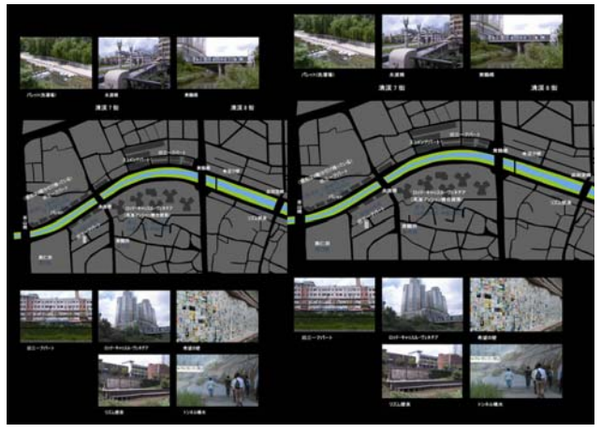
渋滞する清渓道路と清渓高架道路。(清渓川文化館提供)

覆蓋道路のコンクリートは老朽化が進んでいた。

↑清渓川復元工事中の東大門運動場のサッカー場、トラック部分は露天商に、ピッチは駐車場になった。
↓露天商を受け入れた旧サッカー場は巨大なマーケットとなった。(2005 年 11 月)

↑清渓 3 街から 9 街の方面を眺める。真正面に見える横長い大きい建物は左が世運商街、右が大林商街である。当時は清渓高架道路と同じく経済成長のシンボルであった。

3．自然・生態空間（下流）



清渓 8 街を眺める

「希望の壁」ソウル市民をはじめ国内外の人々のメッセージをタイルに焼き付けてある。

街周辺は高層マンションが立ち並ぶが、草木は元気に茂っている。

ドゥムル橋

飛び石は、子どもにはスリルがあるが、楽しく水と親しむ場所である。

清渓川文化館とかつての暮らしを再現したバラック。

清渓 9 街の景色。右側のガラス張りの建物が清渓川文化館。

ドゥムル橋の下の金網には沢山の南京錠が架けられているが、これは二人の固い誓いを表している。

清渓 9　街、内部循環高速道路が清渓川を横切っている。豊かな自然を形成しながら、漢江へと流れてゆく。

ボドゥル湿地、古山子橋を眺める。

冬の景色、清渓川文化館は高架道路をデザインに取り入れている。

冬の清渓川。清渓 8 街までくると、高層ビルもあるが、静かだ。

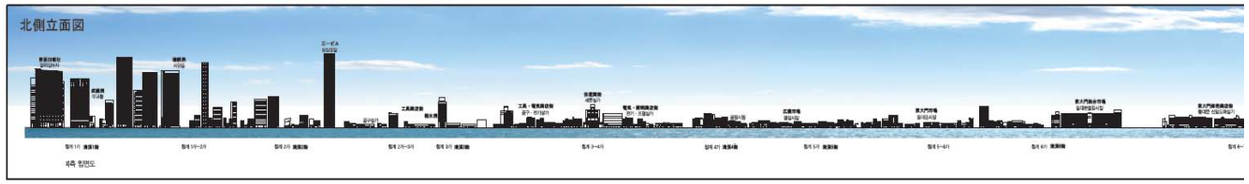
東大門市場付近の露店。

南大門市場の中心部、細い道も店がいっぱい。

練炭の焼き魚専門の飲食店。

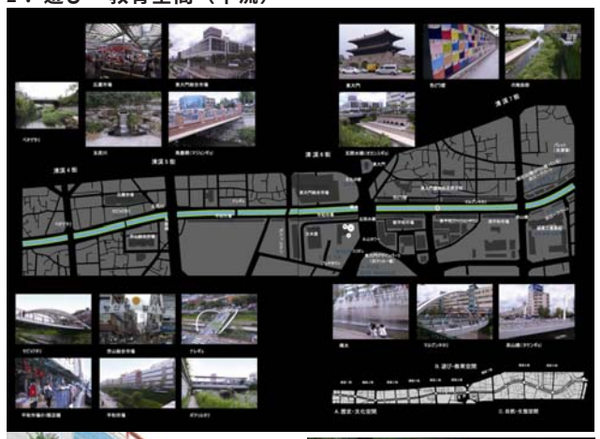
広蔵市場の屋台。

中部市場、この下には南山からの清渓川の支流が流れている。



北側立面図 0.9m × 14m

2．遊び・教育空間（中流）



五間水橋の名前の由来になった、かつての５つの水門をデザインしたモニュメント。

夜景の噴水

立図面のスケール

175 cm

東平和市場、清平和市場付近。

自然環境を求めて人々が集まる。

清渓７街の秋の風景、人工と自然の巧みな融合が新しい自然環境をつくりだしている。

水標橋、現在は奨忠壇公園に保存されている。清渓川の本来の場所に移転する計画中。

洗濯が行われていたかつての清渓川を記念してつくられた洗濯場の再現「パレット」

清渓６街から平和市場の夜景を眺める。

70 年代を代表するスンインアパートもすでに旧い時代の遺産になってしまった。

色どり壁（セクドン）は、この周辺の繊維産業を表している。

清渓７街から８街を眺める。記憶を継承しながらもあらたな環境が形成されてゆく。

このあたりは草木の繁茂が著しい、もはや人工の川とは思えない豊かな自然を感じさせる。

清渓川の支流・城北川が清渓川に流れ込む。

このあたりは草木の繁茂が著しい、もはや人工の川とは思えない豊かな自然を感じさせる。

トンネル噴水の下を歩く。

無学橋はトラス構造の橋。

川の中に残された高架道路の３本の橋脚。

８街から９街を眺める、空が大きい。

3. 復元後

再生した清渓川は、全長約６kmに達するが、性格の異なる３つの部分に分かれて特色を競っている。
1．歴史・文化空間（上流）宮殿などに近く、橋も復元され、歴史と文化を感じる。
2．遊び・教育空間（中流）市場など商業活動の中心に近く、活力があり楽しい。
3．自然・生態空間（下流）鳥や魚と共に緑が多く、静かで、豊かな自然を感じる人道、車道あわせて、全体で２２本のきわめて個性的な橋が架けられ、デザインを競いあっている。

この風景はソウルの３０年間の変化を見事に表している。
高架道路から川に変化したのが印象的である。

甦った清渓川
市民にあらたな憩いの場を提供する。

新しい清渓川がオープンする。（2005 年 10 月 1 日）

大勢の人々が清渓川の水辺を歩く。

清渓６街平和市場付近の夜景。

夜でも大勢の人々が祝う。

夜になっても老若男女がともに楽しむ。

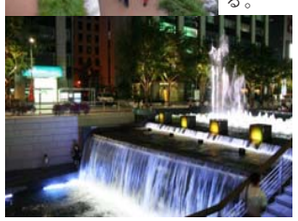
三一ビルから清渓５街方向の街を眺める

川を渡る親子。

地上でも多くの人々が川を見ている。

復元後の鮮やかな清渓川。清渓２街から１街方向を眺める。

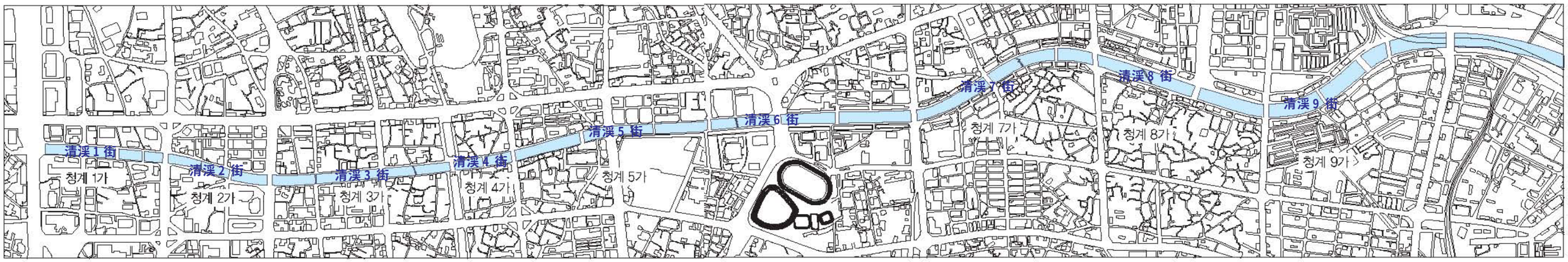
都心の真中を流れる清渓川。



清渓川の出発点、滝と夜景。ろうそく噴水の水が滝となって川が始まる。

自然と橋の対比は楽しい空間をつくりだした。

川を渡る飛び石もあり、田舎のせせらぎを思い出させるきめ細かなデザインが見られる。

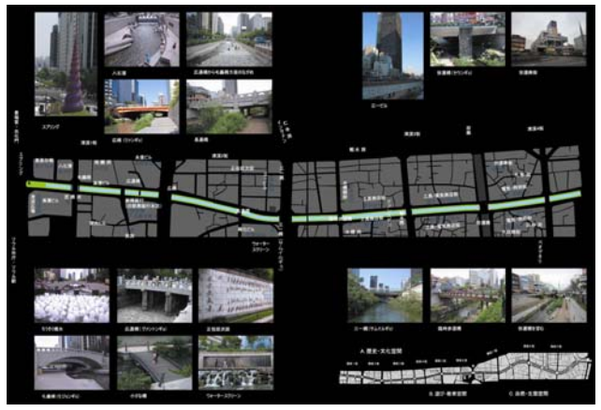


清渓川配置図 2006 年 7 月作成

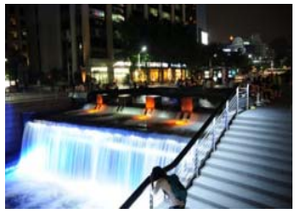
出展概要

写真パネル B2（515 × 728）：50 枚
写真パネル A3（297 × 420）：98 枚
写真パネル A3 ノビ（329 × 483）：12 枚
図面パネル A0（841 × 1189）：9 枚
配置図（布 0.9m × 5m）：1 枚
立面図（布 0.9m × 14m）：2 枚

1. 歴史・文化空間（上流）



清渓 1 街の周辺。川辺には人々が楽しんでいる。



清渓川の出発点の滝。この滝から落ちた水が清渓川の流水となる。

夜景の清渓川出発点周辺。巻き貝のようなオブジェの「スプリング」と東亜日報ビル。

毛塵橋（モジョンギョ）の地上と橋下の様子。橋下には人々が水辺に座り癒している。

広通橋から毛塵橋を望む夜景。

清渓川の起点の清渓広場。巻き貝のようなオブジェは「スプリング」と呼ばれている。

1 日 12 万トンのきれいな水が水深約 40 ㎝の水量を保ちながら下流の方向へ流れていく。

清渓川に清流がもどり、子どもたちが水遊びに興じている。

人工と自然の巧みな融合が新しい自然環境をつくりだしている。

広通橋から広橋を望む。途中にせせらぎや小さな橋があって、変化に富んでいる。

復元によって地下に眠っていた広通橋が復活した。歴史を強く感じさせる橋だ。

毛塵橋（モジョンギョ）下の夜の照明風景。

清渓 2 街の夜景、夜でも人が多い。

霧を噴射する噴水。

広橋の下はギャラリーになっている。

正祖（チョンジョ）隻次図、朝鮮時代の華麗なパレードが陶器のタイル壁画で再現された。

記憶を継承しながらもあらたな環境が形成されてゆく。

清渓川の自然再生は歴史の再生でもある。

ウォータースクリーン、勢い良く落ちる水の流れが美しい。写真撮影スポットとして最も人気がある。

世運（セウン）商街前の噴水と滝。世運橋の池から水が落ちて滝になっている。

清渓 3 街～ 4 街の表通りでは照明器具、機械工具を売る個人商店が軒を連ねている。

清渓川 5 街から 4 街方面を眺める、鮮やかな清渓川の風景。

冬の清渓川の風景、清渓 4 街のセビョクタリ（夜明け橋）、天幕を使った珍しいデザインである。

セビョクタリは天幕を使った珍しいデザインである。

このあたりは 1 階に店を、2 階以上は作業場になっているものが多い。

木や草が生い茂り新しい自然が出現した。

貧しい労働者たちの労働条件改善に寄与したチョン・テイルの像

平和市場、その向こうに新平和市場、さらに東平和市場、清平和市場とどこまでも続いている。

五間水橋（オガンスギョ）の下、舞台も設置できるファッション広場、噴水もあり、子どもにも大人気の場所。